



# 大久保小だより



平成29年10月1日第7号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関2-1

048(854)7636

男子153名女子123名計276名

学校教育目標 **かいっぱい かしこく やさしく たくましく**  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ 教育は、教え合い、育ち合い ～

校長 相川 光彦

今年の9月は、秋雨前線の活動が活発で、台風もきて、雨が多く日照時間が少なかったようですが、無事、稲刈りも終わり青空が高く感じられるようになりました。「〇〇の秋」体だけではなく、心も頭も栄養をつけて成長してほしいと願っています。子どもたちに負けずに私たち大人も、運動や読書、趣味にとさわやかな季節を楽しんでいきましょう。

10月3・4日に6年生は、小学校生活最大のイベントである修学旅行で日光に行きます。華厳の滝や戦場ヶ原のハイキング、東照宮など見所が一杯の秋の日光ですが、子どもたちにとっては、友達と過ごす宿舎での夜が、なんといっても一番の思い出でしょう。修学旅行の思い出はといたら？機会があったら、子どもに話をしてあげてください。

学校では、一人一鉢や学校ファームの活動で、花や野菜を育てています。お世話をすることで実は、子どもたち自身が育てているのだと感じます。命の大切さや不思議さなど動植物を育てることによって、心と体で学んでいるのだと思います。

私たち大人も同じなのです。子どもを育てることで、自分も成長して大人になっていくのではないのでしょうか。男親などは、特にそうなのだ実感しています。子育てをとおして父親に育てていく「子育て年齢」とでも言えばいいのでしょうか。子どもが成長していく分だけ親として成長できるのだと思います。「教える」「育てる」という行為をとおして、実は、子どもたちから教えられ、育てられているのです。そして、子どもと共に成長していくのが、教育なのではないかと感じています。

畑に種を蒔いたり苗を植えたりするとその成長に違いを感じる場合があります。同じ日に「みんな美味しい野菜になれ」と念じて蒔いたのに発芽や成長に大きな差が出てきます。個体差です。人も同じです。成長の遅速があります。でも、きちんと世話をしないと丈夫な野菜に育たないように必要な時にきちんと愛情をかけることが子育てには肝要です。

畑を始めて5年目になりましたが、失敗の連続でなかなか納得した仕事になりません。すぐに芽が出ないと焦って種を追加して蒔いてしまったり、水をあげすぎたりしてしまいます。じっくり待つことが、とても難しいのです。

本校の教員は、みな若く、情熱的ですが、まだまだ発展途上です。子どもたちと共に成長するためにも、保護者や地域の方々の温かい見守りが必要です。これからも、先生や子どもたちと一緒に成長していきましょう。

10月24日(火)には、本校の理数教育の研究発表会があります。理科と算数の授業をさいたま市の先生方に見てもらいます。特に算数では、学習したことが定着しているかを課題に授業づくりをしています。理科では、実験や観察から自然の決まりを見つける考察に力を入れています。

保護者や地域の方も授業参観はできますので、ぜひ見に来てください。

秋は、運動や学習にとってもよい季節です。これからも、「明日も学校に行きたい」と思える大久保小のために私たち教職員も保護者と力を合わせて、『やればできる』を合言葉に子どもたちのよさを引き出し、「ほめて伸ばす教育」を推進して参ります。よろしくお願ひします。